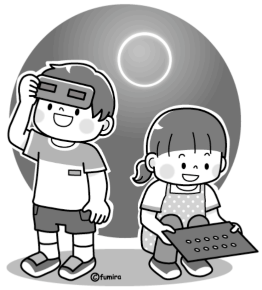
センター通信

2012年度1号



NPOフトゥーロ
LD発達相談センターかながわ
十日市場心理相談室

〒226-0025　横浜市緑区十日市場町８０３－２　第一サンワードビル２F
〈センター〉Tel.０４５ー９８９ー３５０１／Fax.０４５ー９８９ー３５０２
〈相談室〉　Tel.０４５－９８２－５６２７／Fax.０４５－９８２－５６２７
〈ホームページ〉 http://www.futuro.or.jp

今年度もセンター通信は年３回の発行を予定しています。よろしくお願いします。

夏休みの各種サマースクールの案内ができました。指導の際に順次お渡ししていますが、まだお手元にない方はスタッフにお知らせください。一人ひとりのお子さんが楽しんで参加していただけそうなプログラムをご案内します。

~*~

「やる気スイッチ 一緒に探しましょう！」　安住 ゆう子

受験が終わったころ、色々な塾や予備校のＣＭが流される中、「♪見つけよう～君だけのやる気スイッチ～」と盛んに宣伝しているところがありました。「うちの子のやる気スイッチ、見つけて欲しいもんだ」と思わず呟いてしまったお母さんも少なくはないのではないでしょうか。「言わないとやらない」「言ってもやらない」言動に溜息の連続、雄叫びの日々という方も多いことでしょう。我が子がどんなことにでもやる気をもって意欲的、積極的に動いてくれれば親はどんなに嬉しいことでしょう！でも、そうは問屋がおろしません。(だから人間おもしろいのです！)

「やる気スイッチ」は心理学用語で言うと「（社会的）動機づけ」と言います。「動機づけ」は「内発的動機づけ」と「外発的動機づけ」に分けられます。前者はそれに興味関心があり、やること自体が楽しい、自分が活動の中心となって自発的に取り組み達成できて心地よい、できたんだ！という満足感が得られることがやる気につながることです。

そのためには選択できたり、チャレンジしようと思える周囲の工夫が効果的と言われています。後者は外からの力や結果がやる気につながることです。具体的には褒められる、100点という名誉が与えられる、ご褒美がもらえる、認められたいという気持ち＝認めてもらえる環境があること、人との関係の中で「みんなと一緒にやりたい」ということや、さらには罰が与えられる、強制的にやらされるというのも外発的動機づけの一種です。外発的というと自発的ではないとマイナスに考えてしまう方もいるかもしれませんが、自律性の高い外発的動機づけは内発的動機づけ（つまり、○○という係＝名誉になりたいから頑張るなど）とほぼ同様の行動と考えられます。

お子さんにとっての「やる気スイッチ」は様々です。じっくり一緒に探していきましょう！

● 実践報告 12 ●

スプリングスクールについて

岡　純子

センターでは、毎年春休みを利用して小学校入学を間近に控えた、新小学校１年生を対象にしたスプリングスクールを行っています。23年度は、15名のお子さんが３グループに分かれて一日３時間半、３日間のプログラムに元気に参加してくれました。

スプリングスクールには２つの目的があります。１つ目は、小学校生活を楽しく過ごす上で基本となるスタディスキル（集団参加、流れに沿った行動、持ち物管理、授業参加、感情のコントロール）や、学校生活スキル（給食場面、休み時間、掃除場面、集会、行事）の中のいくつかを小グループで経験することです。

２つ目は、現在のお子さんの様子や今後に向けた課題を明確にし、小学校生活がスムーズに滑り出せるよう配慮することです。

この目的に沿って、各グループのお子さんの特性や個性を踏まえながら、プログラムの内容を決定します。それでは、23年度のスプリングスクールの様子をご紹介したいと思います。

★スプリングスクールで何するの？

やや緊張気味のお子さんや、「先生に見せたい」とランドセルを背負って来たお子さんなど様々な表情のメンバーが揃ったら１時間目のスタートです。簡単な自己紹介に始まり、先生から今日の活動内容について説明を受けます。話を聞く時の態度や挙手のルールなど指導の中で練習してきた力を発揮する場面です。

２時間目以降は時間内に着替えて近くの公園に出かけて凧揚げ、十日市場町探検と称してウォークラリー、終了パーティーの時に使う物の買い物など、センターの外に出る活動も多くあります。道路の端を安全に歩く、信号を良く見て自分で判断して渡る、友だちと歩調を合わせて歩くなどは小学校に通う上でとても大切なことなので、普段から親子でゆっくり通学路を歩いてみるのも良いですね。

12時前にはお待ちかねの給食の時間になります。給食当番の人には白衣に着替えて配膳してもらいます。食べる前にお代わりの仕方や、苦手な物や残したい時の伝えた方をみんなで確認し合います。コミュニケーションの力が未熟だと、周囲に状況や気持ちを伝えきれず、給食の時間が苦痛になってしまうことがあります。コミュニケーションの練習、特に自分がどうしてら良いかわからない時、困った時に援助を求められる力をつけることは、通常の指導でも重要なポイントになります。また、給食の時に必要な微細協応スキル（ジャムの入った袋を開けるなど）がまだ十分に身に付いていなかったり、こぼしてしまった時に自分で片付けるという意識やスキルはこれからの課題というお子さんも多く見られました。今のお子さんの力を見極めつつ、少しずつ「自分でできた」ということが増えていくよう丁寧な関わりの積み重ねを求められますね。

掃除の時間は雑巾を固く絞ること、水の入ったバケツをこぼさないように運ぶこと、床の雑巾がけやほうき、ちりとりを使うなど、お子さんにとっても目新しい経験のようで、みんな張り切ってやってくれます。

最後になりましたが、センターには和式トイレしかないため苦戦を強いられるお子さんもいますが、スプリングスクールの契機に和式トイレで用を足せるようになったお子さんもいます。しゃがむ姿勢もバランス力や体幹を支える腹筋や背筋の力に支えられています。

日頃の運動指導の中にも、そういった要素が沢山含まれています。

●お母さん達に聞きました！ー①

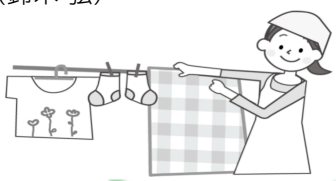
“お手伝い”について

新学期が始まってお忙しい中、アンケートにご協力いただきありがとうございました。87名の方にご回答いただきました。今回は、その中から“お手伝い”についての結果を発表します。

	幼児＋低学年	中学年	高学年＋中学生
1位	食事の配膳	新聞・郵便物取り	新聞・郵便物取り
2位	新聞・郵便物取り	トイレ掃除	調理の手伝い
3位	調理の手伝い	靴を揃える	靴を揃える

食事のことや郵便物、靴を揃えるなどが上位に入り、３位以内ではありませんが、「ゴミ出し」も件数は高く、習慣化しやすいものが人気のようです。掃除も日にちを決めて取り組める機会がもてると良さそうです。

生活に必要なことでも、洗濯、おつかいは全般的に件数が低くなりました。生活力が身に付くよう、自分の洗濯物をたたむ、自分の物は自分で買うなど、自分のことから徐々に取り組ませてみてはいかがでしょうか？　　（鈴木 弦）

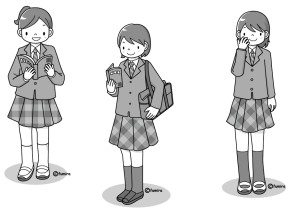


＊ 中高生のつぶやき ～部活と先輩～ ＊

三島 節子

新中一年生にとって、何部に入るか、部の活動内容、どんな先輩がいるのか？先輩は厳しいのか？優しいのか？などはとても関心のある話題です。

先日、中学の巡回で「剣道部」を見て来ました。というのも、対象になったお子さんは授業への参加意欲が少ない印象でしたが、剣道部では一番声を出し、張り切ってやっているとのことで、是非！とお願いして部活動の様子を見せていただくことになりました。別人！と思えるようなＡさんがいました。休憩時間にＡさんに話を聞くことができました。剣道は初めてで特別得意なわけではなく、部活紹介で見た先輩の姿に憧れて入部を決めたとのこと。3年の部長の声掛け（声が大きくて時々面白いことを言ってくれる）や、活動スケジュールが明確（△時から□分間、素振り〇〇回）で、何をしたら良いのかはっきりとわかるので動きやすい。休憩時間もあり、その時間はおしゃべりをしても良いことになっているが、傍らで先輩方が「メン・メン・ドウ」と練習しているので黙って座って見るのが（暗黙の）ルールなんですよ、とのこと。



部活動は小集団での社会性トレーニングの場の役割も担っています。是非、部活動を通して、ルール、礼儀、言葉遣いをたくさん学んでもらいたいものです。なにより、憧れの対象が身近にいると楽しいですよね。